



第86号
 ■発行者■
 退職校長会相馬支部
 支部長 高野敦夫
 ■印刷者■
 (株)ライト印刷

教員不足解消への願い 教員の負担を減らし教員数の増加を

支部長 高野敦夫



昨年度の総会で新役員体制になって一年。事務局も先輩役員の方々の経験をお聞きしながら支部の運営に努めてきました。会員の皆様にはいろいろと難しい状況の中、工夫をしながらクラブ活動や地区活動を継続していただきましたことに感謝申し上げます。

定年年齢引上げに伴い、役職定年者も会員とするように県の会則が改正されました。支部では今年度、役職定年者を含め四名の新入会員がありました。自然減もあり昨年度より七名減のスタートとなりました。

会員減少の傾向は全国的に同じで、現職校長先生に早くからアプローチをして人間関係を深めることが大切であるとも言われています。各地区ともにこれから先を見通し、現職との交流の機会を有効に活用していく必要があると思います。

教員の働き方改革では、教員不足対策の一環として教職調整額の引き上げや授業時間短縮等の話題が出ています。また採用試験の前倒しも進んでいます。

しかし、これで教員不足の解決に向かうのかと心配になるのは私だけでしょうか。まず教員の負担軽減に合わせて教員数を増やすことではないかと思えます。社会全体で教育の重要性を共有しながら、先生方の業

務量を減らし、日常の仕事にゆとりを持たせることができれば、日々の授業に専念できる時間や子どもたちとのふれあいの時間を確保できるようなと思います。県教委では授業や部活動、事務全般の見直しに着手しました。

また、教職の魅力発信と教員確保の方策も大切だと思います。先生になりたいと思うきっかけの多くは、小・中学生の時の先生の魅

力ある授業と多くのふれあいにあると思います。その意志を維持・達成させるため、県教委では相馬高と原町高などに「教育コース」を導入し、また県退職校長会では福島大学で教員を目指す学生の講義の中で教職の魅力を話すなど、教職志願者の確保のために様々な取り組みがされています。

支部ではこのようなことを踏まえ、要望活動の際に話題にしていきたいと思えます。

稿「必然性や必要性を感じて学ぶ」

福島県教育庁相双教育事務所長 佐藤公一



私事で恐縮ですが、必要に迫られ、今年になって私用のスマホとパソコンを立て続けに買い替えました。案の定、初期設定から悪戦苦闘し、同意を求められれば判断に悩み、初めて聞く用語にも困惑するばかり。採用問もない頃は、まだ一般的ではなかったノートパソコンを校務や授業で活用

していたのですが、気が付けば周回遅れの感じになっていました。一方、教育DXは着実に進んでおり、各学校を訪問させていただくと、一人一台端末を効果的に活用する授業が多く見られるようになりました。印象的なのは、児童生徒に特別な機器を無理に使っている感じはなく、操作も文字入力も実にスマートなところです。自分用のスマホを持つ子どもの割合は年々高くなっており、周回遅れの私が困惑しているのは違

って、念願のスマホを手に入れた子どもは、SNSの設定も、目的の動画視聴も難なく行うなど、見事に使いこなしているように見えます。わからないことはネットで調べたり、友達に聞いたりして試行錯誤しながらも解決しているようです。まさに主体的・対話的に学び、目的を達成しています。そこにはその子にとって強い必然性や必要性があることが感じとれます。

今年度、相双教育事務所では相双教育アピールに「授業づくり編」を設定しました。コロナ禍により制限を受けた「対話」の部分に焦点を当て、対話により生まれる深い学びの創造に向けて共通実践事項を掲げました。児童生徒が目を見輝かせ、自ら調べたり、話し合ったりせずにはいられない、それこそスマホに負けない必然性や必要性のある学びの実現を目指したいと考えます。学校現場の先生方を支え、共に考える伴走者としての教育事務所を目指し、所員一同取り組んで参りますので、引き続き諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

総会報告及び事業報告

第六十回福島県公立学校退職校長会相馬支部総会が四月二十六日(金)、南相馬市ひばり生涯学習センターにおいて開催され、三十一名の会員の方々にご参加を頂きました。

会の進行は金谷哲様に務めて頂き、初めに、この一年間にお亡くなりになられた十名の会員の皆様に黙祷を捧げました。高野敦夫支部長のあいさつでは、本会の活動に対する会員の皆様のご協力への感謝の言葉に続き、コロナの感染状況を踏まえ、総会後の懇談会を見送ったこと。さらには、

文書を添削しながら、功績調書の作成についての確認と呼びかけがなされました。

次に、賀寿二名、賀詞三名、喜寿八名の皆様に祝品贈呈があり、高野謙一さまが代表して謝辞を述べられました。また、文部科学大臣賞を受賞された佐藤史生様、文部科学大臣感謝状を受賞された山下富夫様へ祝品を贈呈し、お二人よりご挨拶を頂きました。

続いて、山邊彰一様を議長に選出し、議事に入りしました。

令和五年度の会務報告、会計決算報告、特別会計報告、監査報告、令和六年度努力事項、事業計画、会計

予算案が原案通り承認されました。また、会員数の減少や会報印刷代、郵便料金の値上げなどを踏まえ、令和七年度より、現行の会費を五百円値上げし、四千五百円とする議案について、原案通り承認されました。

なお、今年度は役員改選の年度ではないことから、前年度に引き続き同じ役員となりますが、各地区の校長会との連携をより一層図りながら、会の運営に努めて参りたいと考えています。

誠にありがとうございます ございます

◇瑞宝双光章

吉田雄二様
(元中村第一小学校校長)

◇賀寿(満95歳)

門馬秀夫様
(元いわき養護学校校長)

◇賀詞(満88歳)

草野博夫様
(元石神中学校長)

丹野鐵生様
(元山上小学校校長)

高野謙一様
(元原町第二小学校校長)

◇喜寿(満77歳)

只野正教様
(元真野小学校校長)

廣瀬要人様
(元鹿島中学校長)

大和田秀晴様
(元岩瀬農業高等学校校長)

益山哲雄様
(元石神第一小学校校長)

佐々木健二様
(元磯部小学校校長)

真壁一郎様
(元原町第一中学校校長)

阿部テル子様
(元鳩原小学校校長)

佐藤雅夫様
(元石神第二小学校校長)

令和6年度福島県公立学校退職校長会 相馬支部役員

相馬支部役員

地区役員

支部長 高野 敦夫
副支部長 島 義一

〈新地7〉
会長 加藤 潤一
副会長 菅野 耕平
事務局 吉田 雄二

監事 吉田 雄二
佐藤 博

〈相馬62〉
会長 太田 孝泰
副会長 堀川 幸一
事務局 吉内 次夫
佐藤 博

幹事 井上 恭一
伏見 康弘

〈鹿島17〉
会長 遠藤 秀通
副会長 星 和彦
事務局 大谷 一裕
阿部テル子

理事

新地 但野 良子

相馬 堀川 幸一
林 宗一郎

吉内 次夫
午來 勝顕

星 和彦
大谷 一裕

鹿島 佐藤 光正
玉川 雄一

原町 山邊 彰一
杉内 律子

小高 金谷 哲
梅田 善幸

〈小高21〉

会長 佐藤 雅夫
副会長 渡辺 金作
事務局 金谷 哲
梅田 善幸

〈原町68〉

会長 草野 正徳
副会長 清信 悦孝
事務局 山邊 彰一
杉内 律子

学校紹介

出かけよう 未来を見つける旅に

福島県立相馬総合高等学校長 中村 康伸

令和四年四月に相馬東高校と新地高校が統合し、相馬総合高校として開校しました。校舎方式による統合となり、新地高に入学した生徒は、新地校舎で継続して学ぶことになりました。

校訓は、新地高の「誠実」と相馬東高の「自律 共生 創造」をいただきました。教育課程は、相馬東高での学びを継承し、総合学科として五つの系列を設定して、進路希望や興味・関心をもとに科目選択をしていきます。また、地域探究活動やボランティアなど地域の学びのフィールドとした学習に取り組んでいます。地域の皆様からのご協力もあり、総合的な探求の時間



など様々な場面で直接ご指導をいただく機会を得たことに感謝しております。今後ともキャリア指導推進校としての取り組みにご支援ご協力をお願い致します。部活動では、昨年度までの二年間は、ソフトテニス部やバドミントン部などで両校舎の生徒が一つのチームとして大会に出場しました。

新地高のおもひの木プロジェクトの継承については、防災・復興教育を教育の柱の一つとして、相馬市役所などと連携して防災訓練の実施や、追悼記念行事の中で、祈りの石やおもひの木について学び、東日本震災の被害者に追悼を行うなど、新たな形で実施しています。

合高の校旗を掲揚する中、新地高の歴史を振り返り、両校の校歌を歌い、別れを惜しみました。これまでの新地高へのご支援ご協力に感謝申し上げます。

今年度の重点目標の一つを「一人一人が活躍できる教育を実践します」としました。生徒の価値観が多様化する中、一人一人の良さを認めそれを伸ばしていく、主体的に学習に取り組み、様々な方と協働的な取り組みをしていくことが、本校の役割だと思っています。地域を支える人材の育成に向けて引き続きご指導ご支援をお願い致します。

お待ちしております。

新入会員紹介

氏名(最終勤務校) 一 言



志賀 英司 (高平小)

今年度より学校教育支援センターで勤務することになりました。

定年退職までの二年間は、コロナのため活動が制約され、校長としては寂し

く感じることもありましたが、再任用の三年間は、少しずつ以前の活動ができるようになり、充実した教職生活を送ることができました。今後は、先生方への有意義な研修の提供に努め、指導力向上の一助になるようにしてまいります。



佐々木 徹 (八沢小)

四月より、初任者研修指導教員として指導にあたりしております。様々な教育課題が山積している中、新採用の教員が研修をとおして成長できるよう、これまでの経験を生かして尽力したいと考えております。

また、研修が情報を活用した教育のDX化や働き方改革に繋がるよう、自分自身の研鑽にも励んでいきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



佐藤 恭司 (石神中)

東日本大震災後、カウンセラーによる子どもたちの

心のケアを目的に設立されたNPO法人相馬フォロアーチームで昨年度より、事務職員として勤務しています。震災に伴う心の相談は、ほとんど無くなりませんが、不登校や発達障がい、対人関係、子育て不安など、多様な心理相談が増加しています。地域の子どもたちや保護者、教員のための一助になれるように務めていきたいと思ひます。



反畑 増生 (向陽中)

昨年度三月に役職定年となり、四月から新たに特例任用校長として中村二中に勤務しております。

中村二中は二十七年前に五年間に渡り教員として勤めさせて頂いたこともあり、保護者の多くがかつての教え子という状況です。勝手知ったる地で自らの教員としての集大成が行える幸せを日々感じております。子どもたち一人一人の自己実現を図るために最後まで全力を尽くしたいと思ひます。

自分好みの

珈琲を求めて

箭内 仁史



退職後は喫茶店のマスター。そんなことを考えていた時もありましたが、趣味として自分好みの珈琲の香味を追い求めたいと思う

ようになりました。

そのための第一歩として通信教育のバリスタ講座を受講して、基本的な知識や技能を身に付けることから始めました。結果、美味しい珈琲を淹れるためには相当努力しなければならぬことを実感しました。

幸いなことにその頃勤め始めた公民館の仕事の一つとして、バリスタ講座（教室）を運営することになり講師の方にご指導を受けながら実践を深めるチャンスに恵まれました。

この講座の実践をとおして、中南米のブラジルやコロンビア、グアテマラ、アフリカのエチオピアやケニア、タンザニア、アジアのインドネシアや東ティモール、マンデリン等の世界の有名な国々の珈琲を味わうことができました。どの豆も香味に特有の特徴があり、香りや酸味、苦み、甘味、コクを十分に堪能することができました。

興味深いことに、同じ豆でも、焙煎の度合いによつて、具体的には中煎りでは酸味が引き立ち、中深煎り

では苦みや甘味を感じるようになります。更に豆の挽き具合、ドリップの方法、抽出するお湯の温度や量の違い等によつて香味が異なつてきます。実に奥深い世界です。

今は、香味の特徴を決定する一番の要因である生豆の焙煎にこだわり、手網焙煎に本腰を入れています。

本格的に取り組んで三年目になりますが、満足はいく香味に出会えたのはほんの数回です。それでも、焙煎仕立ての新鮮な豆をドリップして飲む珈琲は、至福のひとつです。その上、家族や友人、同僚に淹れた珈琲を「うまい、違うね」と言つて飲んでもらえた時には、「まだまだ」と言いながらも、心の中ではついにんまりしてしまします。お陰様で、珈琲豆生産に関わるフェアトレードや気候変動のニュースを聞くにつれ、世界の情勢に関心が広まるようになりました。

自分好みの珈琲の香味を追求する旅はまだ続きそうです。

充実した

日々を過ごして

吉田 雄二



退職して十年。あつという間でした。今の仕事も退職した翌年から続いています。健康でいられるからその生活としみじみ思います。

勤務している法人は、設立以来、就労支援の単一事業所でしたが、昨年四月に生活介護事業所、今年の四月には、相談支援事業所を新たに開設しました。事業拡大に伴い、職員の配置転換もあり、昨年からは、理事会や評議員会等各種会議の事務、研修会の開催、各種研修の受け入れ事務、外部機関との連絡調整等これまでの業務に加え、現場での利用者支援も担当しています。

す。個別支援計画書の策定から支援に関する日々の記録、評価、相談等多岐にわたる日々、仕事に追われている状態です。

このような中でも、何といても、年齢や障がいの程度にかかわらず、利用者の皆さんが、わずかながらも確かな足取りで成長をしていく姿にやりがいを感じているところです。

休日は、米や野菜づくりに精を出しています。耕作放棄地にならないように年間を通して四カ所の畑にいろいろな作物を栽培しています。先輩や近所の方から教えてもらい、少しはましな作物を育てられるようになってきました。うまくいかないことも多々あります。これからも勉強していきたいと思えます。



ヘルシー
— healthy —

～ 執筆2 巡目連載中 ～



お手伝い 結構忙しい

菅野 孝司



五年前から地区への恩返しのため、町内会の役員のお手伝いをしている。お手伝いを始めた頃は、度コロナが流行しており、町内会の仕事も人と関わるものは実施していなかった。しかし、コロナが落ち着いてきた二年ほど前から、徐々に行事も復活してきた。

(四月) 春のお祭りがある。神社付近には大小の幟を立て、会場を作成し、当日は地区の子どもや団体の踊りなどが奉納される。

(春と秋) 二カ所ある広い花壇に、地区の人や老人会、中二中生徒たちの協力を得て花植えを行う。花壇は、花を植えるまでの準備やその後の除草や水やりなどの作業に手間がかかる。

(七月) 地区の薬剤散布作業が暑い中行われる。

(八月) 盆踊り大会を実施する。主に子どもを対象にした仮装盆踊り大会である。樽作りや賞品の提供など、地区の人々の人的・物的な協力を得て行われる。

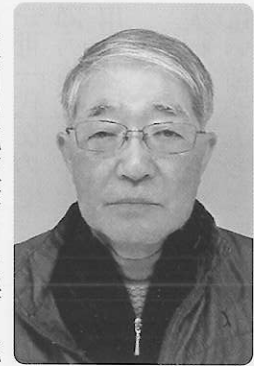
(十一月) 防災訓練を実施するが、防災計画等の整備等が課題となっている。

(十二月) 青少年健全育成を目的として、松川大橋周辺の空き缶回収や清掃等の環境整備を地域の子どもや保護者と一緒に行う。

(一月) どんと祭、その後は新年度に向けた準備と一年中行事が待っている。

皇帝ダリア

小泉 勝洋



家内の花壇作りを毎日眺めながらの生活が中心である。昨年地植えした皇帝ダリアが三メートル位に成長した。十一月中旬から開花が始まったが、十二月初旬の霜であつという間に全滅。今年は露地で冬越えさせた根から発芽してきた。

名前に対応しい成長を期待し、毎日眺めているが、一つの根からの挿し芽であるのに、成長度合いに違いがありすぎと感じている。草でありながら大きくなると青竹の硬さになる事に興味関心が湧き、屋敷周りをこの花が晩秋の庭を賑やかにしてくれる事を心待ちにしている。

我が家の花壇や庭木の手入れは、家内一人の頑張りで維持している。毎日手入れされている花壇の草花や

庭木を眺め、そこから生きる力を貰っている。二つある藤棚の開花も終了したので、一部剪定作業をした。その樹液で肌荒れの症状が見られたが、酷くならず済んだのでホッとした。手を掛け、お手伝いする時は少ないが、観賞する時間を大切に思っている。花壇には多種多様の草花が地植えされているが、その名前も覚えきれずに、ひたすら眺めての生活の日々である。澄み切った青空に多数のピンクの花を咲かせた皇帝ダリアの姿を想像した。

マイブームパートII

星 国史



前回の投稿で、「マイブーム」として題して、歴史小説にはまっていると原稿を書いた。熱しやすく冷めやすい性分だが、我ながら現在も続いているのが不思議である。当時は、大河ドラマ

マの影響で、明智光秀の人氣にあやかり、多数の歴史小説を読みあさっていた。もともと、歴史は嫌いではなく、特に日本史は受験の時も何かと助けてもらった。読み進めていると、興味が広がり、とうとう高校の時に使っていた山川出版のあの「赤い教科書」まで買い込んでしまった。改めて読み返してみると、淡白な短い文章の中にもなんとなく歴史が見えてくる気がした。高校の時は、訳もわからず、歴史的な事実や年号を闇雲に丸暗記するだけだったが、今なら歴史小説で培った僅かながらの予備知識のおかげで、教科書の文章の中にある歴史的な事実を想像することができる。また、日本史を考えていると、世界との関係が垣間見えてくる。世界史と日本史の両方を知ることによって世界の中の日本、世界と日本との関係が理解できるのではないかと考える。

歴史小説が単なるマイブームでなくなつた今、更には、世界史についても少しずつかじってみようと思う。

クラブ活動

囲碁クラブ

大谷 一裕

年間の活動は、次の通りです。

- 親睦囲碁のつどい
- ・十月頃に開催予定（平日か休日の午後一時から三時頃まで）
- ・場所（原町区で予定）
- ・部員と囲碁に関心のある方に、後日連絡いたします。
- ・今年度は参加可能な日をお伺いしながら開催できるようにしたいと考えています。
- ・囲碁が初めてという方も大歓迎ですので、皆さんお気軽にご連絡ください。

ゴルフクラブ

菅野 耕平

本年四月、総会を開催して役員改選及び事業計画等を決定しました。

年十二回の例会は鹿島CCをメインに、宮城野、パ

ーシモンCCでも実施する予定です。

会員数約三十名、会員相互の親睦を図り、ルールとマナーを守り、他の模範になれるクラブを目標にしたいと思います。

さらに、身体的・精神的に充実した運動となるように、また、技術の向上を目指し、一球・一打に気力を込め、スコアメイクにベストを尽くし、より明るく、楽しいプレーができるように心掛けて活動していきたくて考えています。まずは健康第一に頑張りたいと思います。

俳句クラブ

江井 芳朗

今年度は、八月に俳句会を原町区で開催し、会員相互の親睦を兼ね研修したいと計画しています。その折に意見交換をして今後の研修会のあり方を検討していきたいと思っております。

会報「そうま」（年二回）

への出句は勿論、常日頃の作品で参加し、更に研修に励みたいと思っております。

特に今年度は、県芸術祭が相双地域で開催され、県俳句大会が十月六日（日）南相馬市のホテル丸屋グラウンドで開催されます。会員の皆さんの絶好の研修機会でもあり、進んで参加していただきたいと思っております。また各人、結社内でもご活躍中でもあります。

園芸（庭木）クラブ

渡部 長男

五月に、野菜の種蒔きから苗の定植までの研修を鹿島区の「かやのきファーム」で実施しました。

まず、種は新しいものを使用すること。種は殆どが一世一代なので、二年目以降の種は発芽率が低く、使用しない方がよいとのこと。二つ目は、種をまく土が大切であるとのこと。土はばい菌が入っていない消毒してあるものがよく、それを使うと発芽率は百パーセントだそうです。

次に、露地栽培をする場合は、苗の定植は五月十日以降にするとよいとのこと。

これは、遅霜や朝夕の低温の被害にあわないうからだそうです。こうした研修の後、会員が皆元気に過ごすことを誓い散会しました。

釣りクラブ

杉浦 伸吉

会員は十名ですが、高齢や健康上の理由で参加者が少なくなっています。釣りクラブ会員でなくても、一度だけ参加したい方でも案内をしますのでご連絡いただきたいと思えます。

今年度は、六月相馬港、七月仙台港、九月小名浜港、十一月一泊二日檜原湖ワカサギ釣りと、全て土曜日に実施する予定ですが、変更もあります。また、魚の釣果情報により臨時に実施することもあり、鳥の海（荒浜釣り公園）、閑上漁港や塩釜港、中禅寺湖（ワカサギ）なども新しく開拓し、釣り後の温泉や海鮮食事で楽しみたいと思っております。計画に拘らず、無

理せずゆったりで釣りをとを考えています。

パークゴルフクラブ

浜名 俊明

今年度の活動は、次のようなものです。

- パークゴルフを楽しむ会
- ・毎週火・木曜日の午後
- ・東武PG場（川子）にて
- ※初めての方・初心者も参加可能です。
- 親善パークゴルフ大会
- ・十一月七日（木）
- ・東武PG場に於いて
- ・四コース。三十六ホール
- ※商品を多数用意して、多くの方の参加をお待ちしております。

今年度は、二十名が所属し、各自が目的（体力保持・技能向上・ダイエットなど）を持って頑張っていきたいと思えます。野外での運動は、気分転換には最高です。

園芸（盆栽・山野草）クラブ、保健クラブ、書道クラブ、短歌クラブ、旅行クラブ、将棋クラブは休部中です。

東 西 南 北

新地地区

新型コロナウイルス感染症の取り扱いが緩和されたことから、三月末日に五年ぶりと
なる対面による総会を開催
しました。

事業報告や今年度の計画
等の協議、近況報告、会食
等、あつという間に時間が
過ぎてしまいました。

本年度の事業として、現
職の校長先生方との懇談会
の実施や可能であればレク
リエーション等相馬市の行
事に参加させてもらうなど
の話し合いが行われまし
た。役員改選では、新会長
に加藤潤一先生が選出さ
れ、新年度のスタートを切
りました。(吉田 雄二)

相馬地区

今年度の相馬市退職校
長会は反畑増生氏を迎え
六十二名となりました。

地区総会は、四月六日
二十人の会員の参加の下、
相馬市教育実践センターで
行いました。

しかし、懇親会は、まだ
新型コロナウイルスが心配で
控えさせていただきました。

新型コロナウイルスが五類感
染症に引き下げられ一年余
徐々に落ち着いてきました。

今年から現職校長との合
同研修会「重陽会」と会員親
睦の紅葉狩りを順次開催し
たいと思います。

是非多くの会員の皆様の
参加をお願いいたします。
(吉内 次夫)

南相馬市鹿島区

今年度は、少しずつ、で
きることを実施しようとい
うことになりました。

- 一、区総会(四月六日、参
加者十八名)
- 二、パークゴルフを楽しむ
会(希望者で)
- 三、研修旅行(検討中)
- 四、教和会(区内小中学校
長との情報交換を含む
親睦会、検討中)
- 五、忘年会(十二月上旬頃
に、原釜又は松川浦、
岩ノ子あたりで、日帰
りで実施予定)

会員全員が無事、健康で
過ごせることが、今年度の
願いです。(大谷 一裕)

南相馬市原町区

五年ぶりの総会には、会
員十六名が参加、高野謙一
先生の米寿の祝品贈呈後、
議事が進められ、計画等が
承認されました。その後、
原町区内の小中高校長十名
の出席を得て懇親会が盛大
かつ和やかに開催されまし
た。

新入会員一名を加え、総
数六十六名が会員です。

この後、九月に役員会を
開催し、十一月には秋の紅
葉狩り研修会及び懇親会を
開催する予定です。また、
時代に即応した新たな活動
等についても協議する予定
です。(山邊 彰二)

南相馬市小高区

昨年度は、十一月に「黒
松会だより」第十八号を発
行することができました。

今年度は、五月十八日に
二十一名の会員の中から十
名の参加で総会を行いました。
総会では、小高小の村
田校長先生、小高中の山田

校長先生から学校の現況や
経営の方針についてお話し
いただきました。その後、出
席者それぞれの近況報告を
行いました。

今年度の活動計画として
は、昨年引き続き会員全員の
原稿をもとに「黒松会だよ
り」十九号の発行を計画し
ています。(金谷 哲)

ご冥福をお祈り 申し上げます

故 今野昭八郎先生(89歳)
令和6年3月4日逝去

昭和39年福島大卒。同年
大館村立大倉小を振り出し
に、山上小、飯豊小、上真
野小、桜丘小、熊町小、中
一小に勤務。

昭和58年大綱木小教頭に
昇任。飯豊小教頭を経て、
平成元年白石小校長に昇
任。平成6年上真野小校長
を最後に退職。

故 古川 惠庸先生(93歳)
令和6年3月8日逝去

昭和29年会津農業高校を
振り出しに、相馬農業高校、
海浜青年の家指導主事とし
て勤務。昭和55年県立聾学

校教頭に昇任。相馬農業高
校教頭を経て、昭和61年安
達東高校長に昇任。平成3
年相馬農業高校長を最後に
退職。その後、原町市教育
委員を務めた。

故 伏見 幸子先生(85歳)
令和6年3月24日逝去

昭和36年福島大卒。同年
浪江町立津島第二小を振り
出しに、県北や鹿島町、原町
市の小学校に勤務。昭和61
年原町市立原町第一小教頭に
昇任。太田小、高平小教頭
を経て、平成7年八沢小校
長に昇任。平成11年大甕小
校長を最後に退職。その後、
原町市の市民相談員等を務
める。

故 岩本 勝博先生(94歳)
令和6年5月13日逝去

昭和28年福島大卒。同年
玉野中を振り出しに、鹿島
中、中二中、中一中、浪江
東中に勤務。昭和53年川内
中教頭に昇任。中一中教頭
を経て昭和59年川内中校長
に昇任。磯部中を経て、平
成2年中二中校長を最後に
退職。

文芸

俳句

金谷 哲

津波跡ただ平原の臍かな

ペダル漕ぐ真つ新な靴
木の芽風

廃屋に残る深紅の薔薇高し

箱入りの生まれは何処
さくらんぼ

診察を待つ母の背薄暑かな

草野 博夫

糰杖餅妻の自慢の一つなる

差芽して秋迄収穫
トマトかな

栗南瓜天空回し味増せり

馬鈴薯の増産祈り花を摘む

青胡瓜味噌付け齧る幸せよ

江井 芳朗

手術医の眼光据る梅雨の中

手術了ゆ歩み新たに梅雨灯

病窓よりそろり見む青山河
退院も不安なるや梅雨明り
螢の火おぼつかかな試歩灯す

川柳

山野辺 久

三歳の曾孫に貰う元氣節

まだ行ける握手を交わす
老い二人

ヒトだもの
色々あるさ気にしない

いい風が来たぜしあわせ
噛みしめる

卒寿旅令和の風は心地良い

平間 勝成

五月晴れ輝く君は女武者

疲れたら東屋探し
生きてみる

ラーメンも千円時代
面喰らう

散り際に人生重ね桜観る

学ぶこと楽しむことが
自分訓

安良 紀男

発見があるから楽し
ぶらり旅

うまい話にゆれる心を
見透かされ
笑顔だけ映る鏡を
今朝も拭く

うまいなあおふくろの味
ひとり占め

幸せは響き合ってる
妻がいる

前山 利栄

戦いが済めば握手の潔さ

刈られても白旗上げぬ
夏の草

年金が少し上がって
祝い酒

ニセ電話耳が遠くて
すぐ切られ

漏るのかな一升瓶が
すぐに空

彫刻

観音像

伊達 孝行



書

阿部 照苑

鶯の羽もかいつくろひぬ初しぐれ(向井去来)

曙のむらさきの幕や春の風(与謝無村)

今回の作品は、震災後友人に誘われて習い始めてから
七年目の作品になります。
課題が出される度、同じ文字でも何通りもの書き方が
あるので、内容に合った文字の表現に悩みながら書いて
います。

編集後記

新札発行。東京都知事選。
大谷選手大活躍。梅雨だと
いうのに浜通りで猛暑日。
そのような中での編集作業
でした。

編集委員

- 森 仁市(新地)
- 伊藤 浩樹(相馬)
- 鎌田 由人(鹿島)
- 杉内 律子(原町)
- 寺岡 弘之(小高)